

まちで育てることはまちが育つこと —「まち保育」のススメ—

横浜市立大学大学院都市社会文化研究科・教授 博士(工学)
三輪律江

電通
総研



横浜市立大学教授 三輪律江氏

カイヤとシャカイをつなげよう。「まち保育」で育つ人と地域

2021.12.17

#次世代

#地域課題

#QoSフォーラム

電通総研・クオリティ・オブ・ソサエティ
(QoS)フォーラムより

- カイヤとシャカイをつなげよう。
「まち保育」で育つ人と地域

<https://institute.dentsu.com/articles/2288/>

- 「まち保育のススメ」解説動画

<https://www.youtube.com/watch?v=NTTuNFW744Y>



まち保育解説

解説動画の
視聴はこちら

私の研究領域と関連項目

Ⅱ 社会関係資本(社会学)

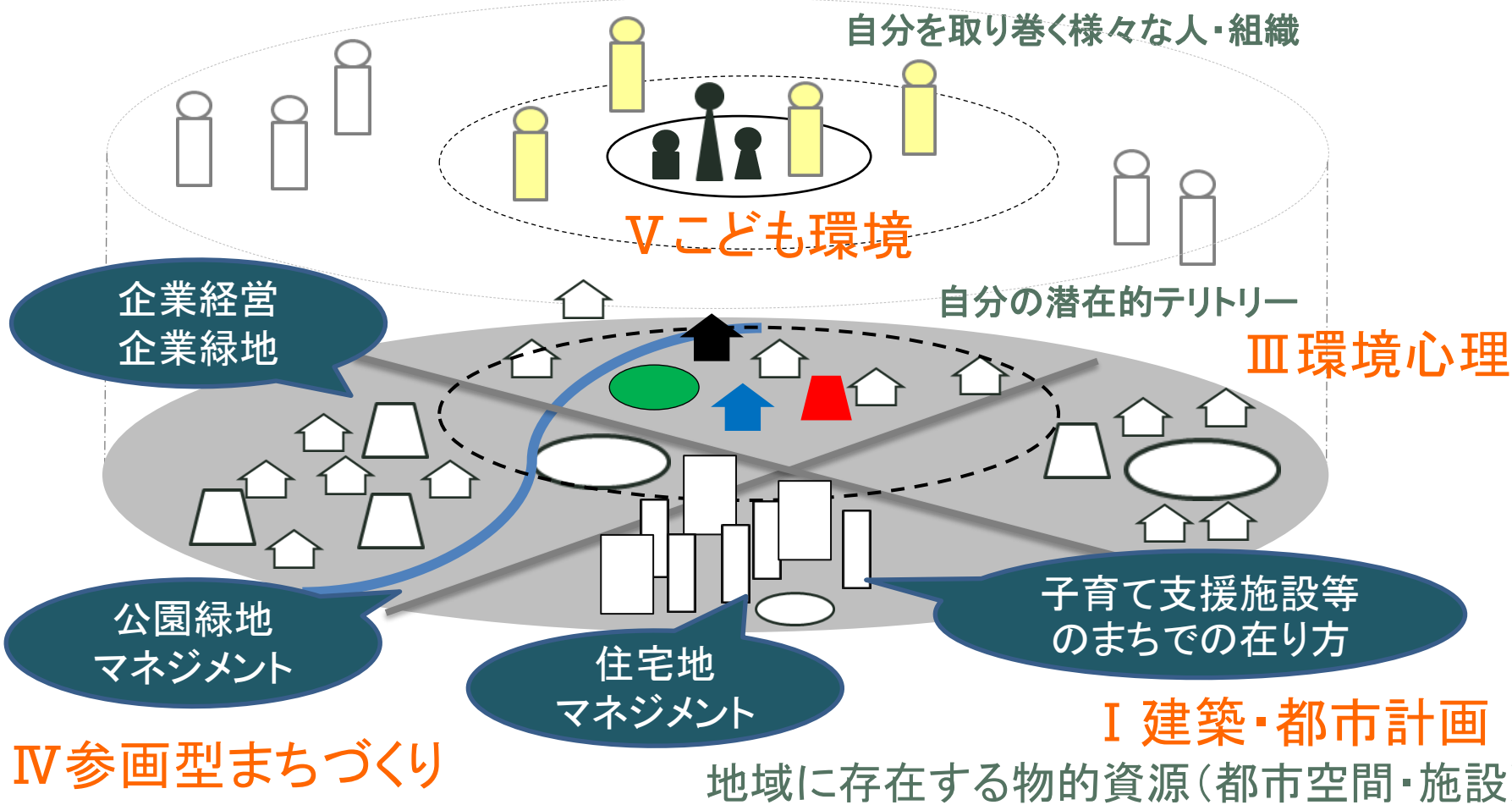
妊娠期

高齢期

就労者

地域に存在する人的資源

自分を取り巻く様々な人・組織



Ⅴ こども環境

自分の潜在的テリトリー

Ⅲ 環境心理

企業経営
企業緑地

公園緑地
マネジメント

住宅地
マネジメント

子育て支援施設等
のまちでの在り方

Ⅰ 建築・都市計画

Ⅳ 参画型まちづくり

地域に存在する物的資源(都市空間・施設)

これらを施策展開するために必要な実践的・学際的視点

本日の流れ

- ①まち保育とはなにか
- ②子どもはまちのどこでどう育つのか
- ③なぜ子育て支援ではなく
子育ち支援なのか
- ④まち保育の4つのステージ
実現のために

①『まち保育』とはなにか

子どもの育ちに“まち”を開き
子どもとともに“まち”が育つ…

子どもと保護者の育ちを
血縁関係だけでなく
地域社会で共有するため
多様な主体を巻き込みながら
地域資源を活用した
まちとの関り方を促す手法論



「保育」

乳幼児を適切な環境のもとで健康・安全で安定感をもって活動できるように**養護**するとともに、その心身を健全に発達するように**教育**すること

「**まち保育**」は、子どもたちの生活をより豊かにするものです。
それは、保育施設・教育施設の園外活動だけを指すではありません。

まちにあるさまざまな資源を保育に活用し、
まちでの出会いをどんどんつないで
関係性を広げていくこと、
そして、子どもを囲い込まず、
場や機会を開き、
身近な地域社会と一緒に、
まちで子どもが育っていく土壌づくりを
私たちは「**まち保育**」と呼んでいます。

子育て支援の場においても、
家庭生活においても、
また地域の活動においても、
「**子どもがまちで育つ**」視点を
大切にしてほしいと考えています。

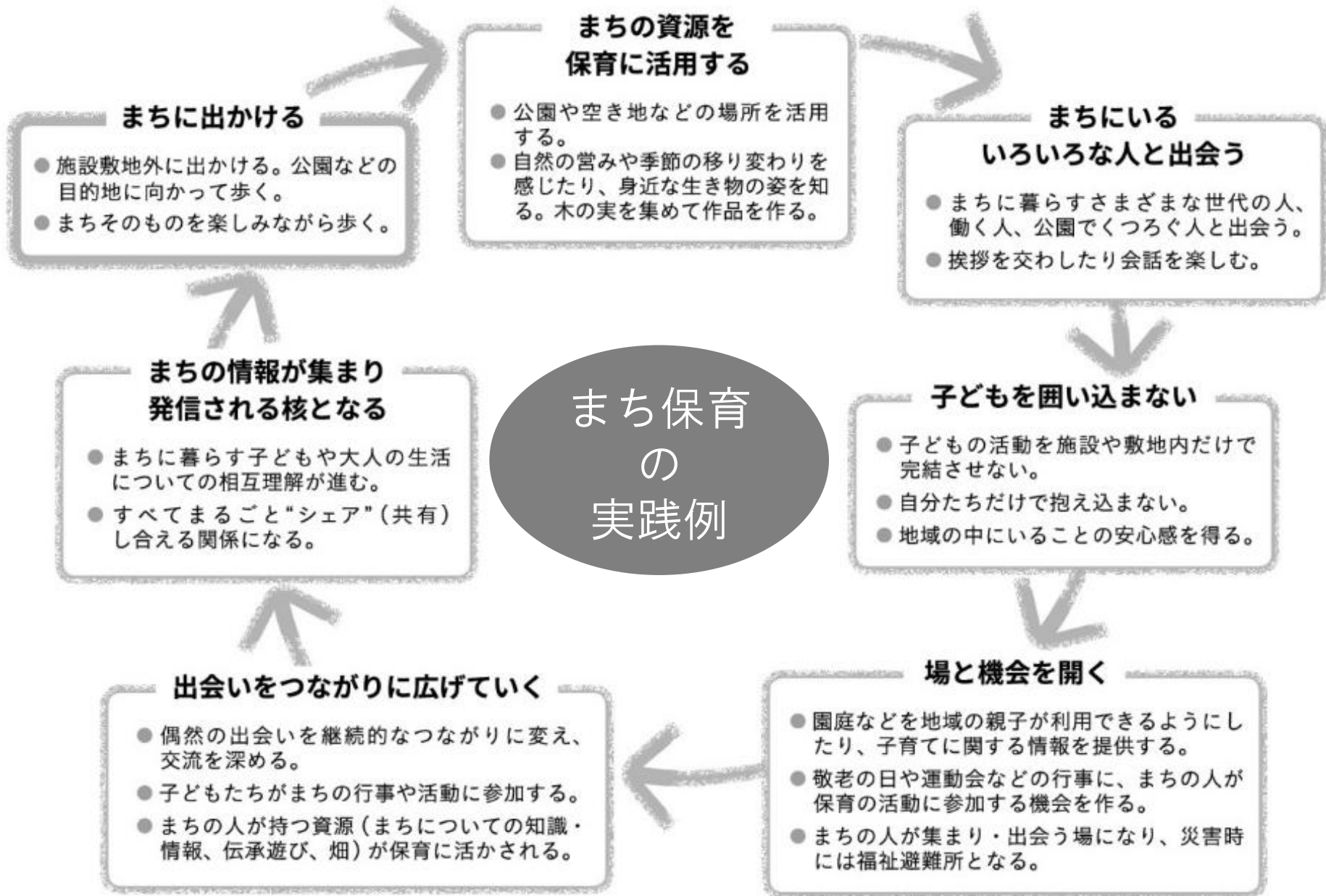


出典：

『まち保育のススメ

—おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』

2017年5月5日発刊（萌文社）より



※まち保育の実践はさまざまな形が考えられます。ここで示しているのはほんの一例です。

乳幼児期からの “身近な地域社会との接点” その機会の創出の試み

就学前の子どもが集積する保育施設に着目し、
『まち保育』という考え方へ至った
プロジェクトの着想・実践

就学前の子どもが集積する**保育施設**への着目



2007年の横浜市のアンケート実態調査からは、園庭が狭い／無い保育施設は、日常的に園外活動を行い、周辺地域の公園や道、商店街等を園庭代わりに利用していることが判明。

でも、**地域とのつながりは薄く、悩んでいる保育施設も多数。**

保育施設の建物形態と立地状況

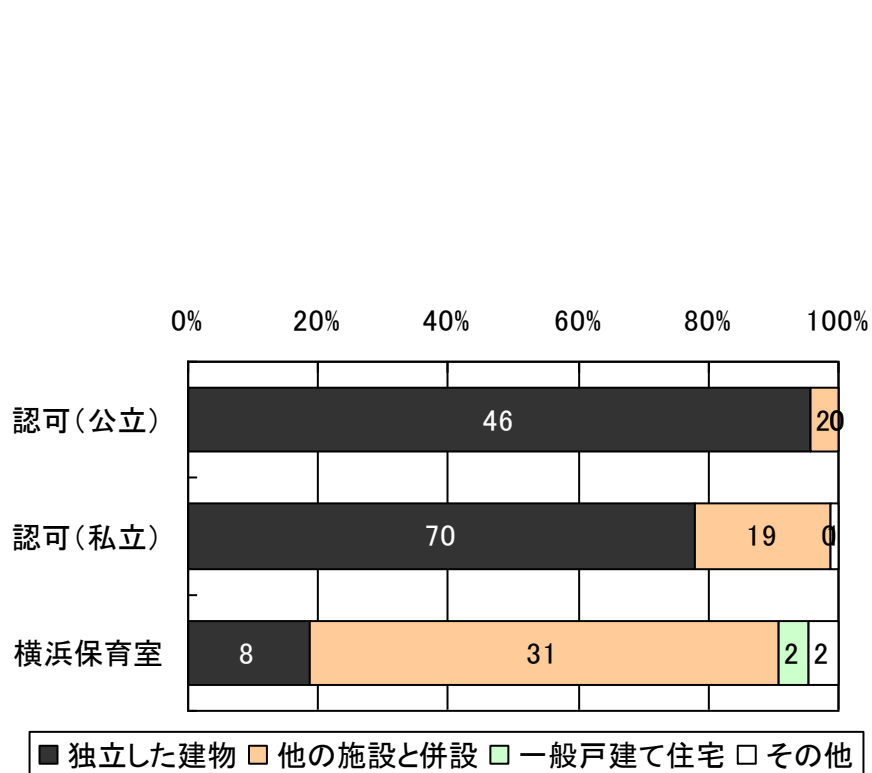


図 保育施設の建物形態

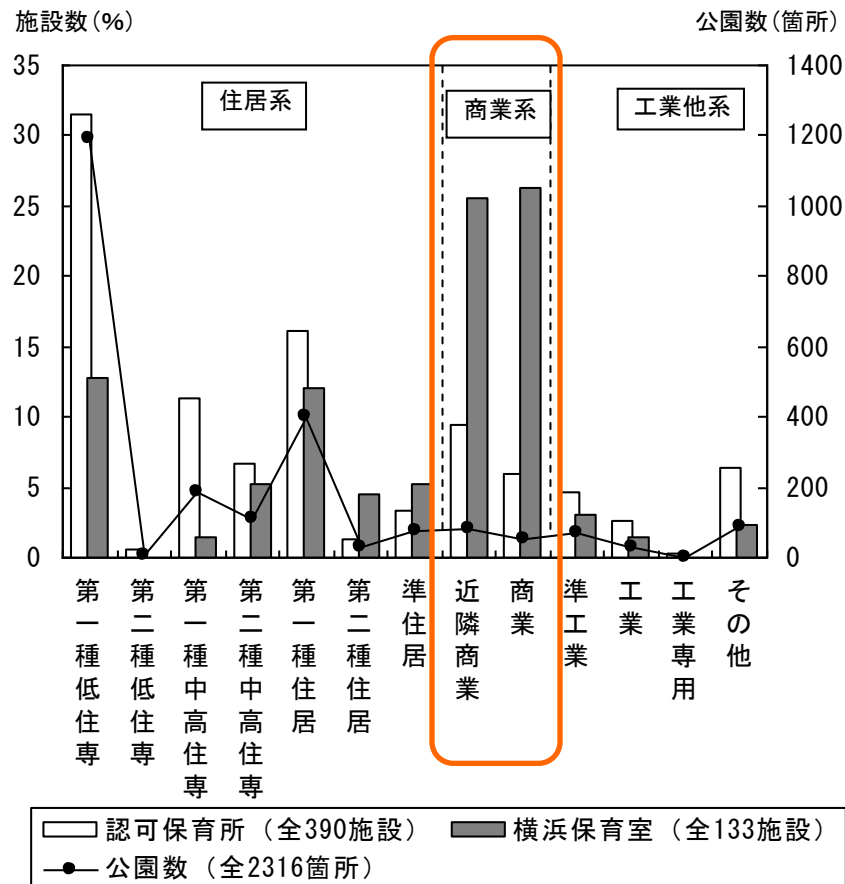


図 用途地域別の保育施設・公園の立地状況

保育施設の園外活動の頻度と 主な活動場所

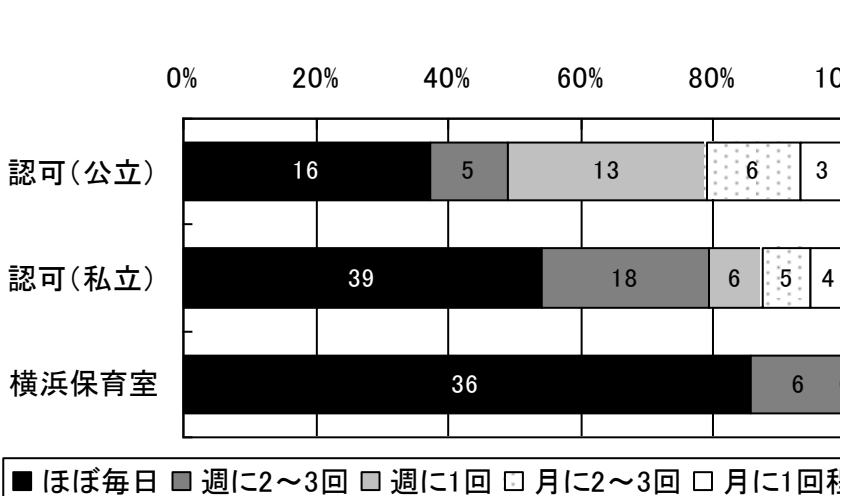


図 施設別の園外活動の頻度

1) 体力増進や運動能力を向上する

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

2) 健康を保持する

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

3) 自然にふれる

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

4) 生き物にふれる

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

5) 身近な施設・生活に関心を持つ

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

6) 地域の人々と交流

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

7) 交通ルール等安全知識の習得

認可(公立)
認可(私立)
横浜保育室

0% 20% 40% 60% 80% 100%

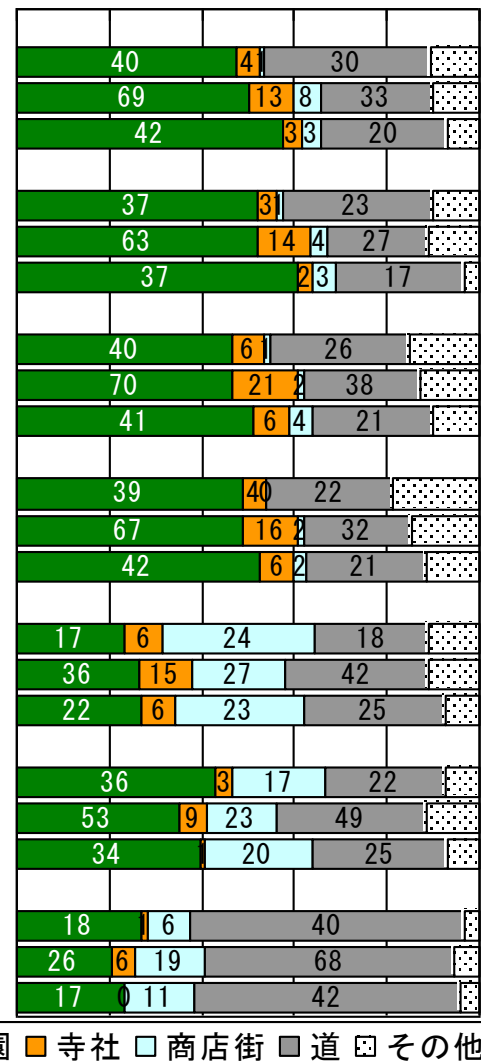
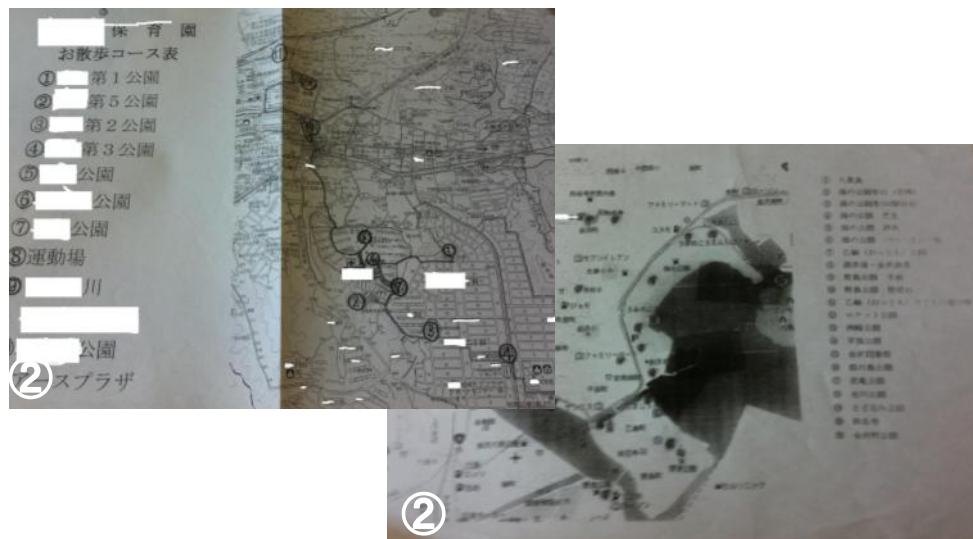
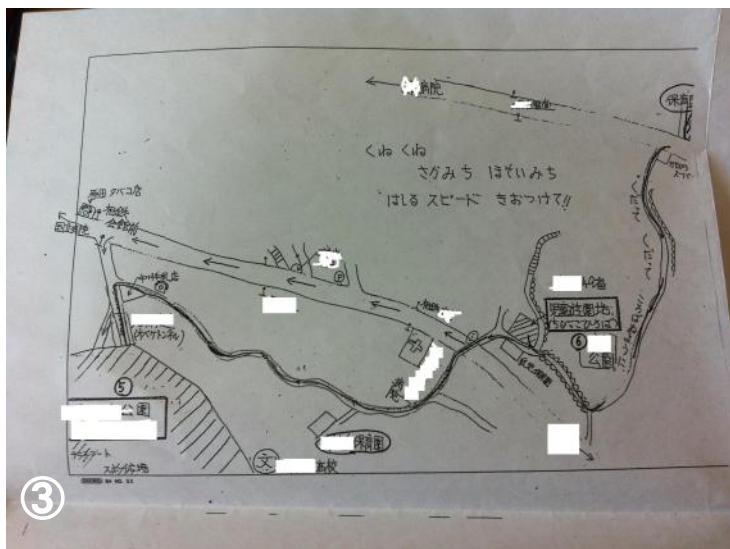


図 園外活動での保育のねらいと活動場所(複数回答)

マップ上のコメントに関する 4つの大きな特徴:



- ①「コメント」が多いもののor少ないもの (コメントあり) 28/50施設
- ②「場所やお散歩ルートのみ」で描かれたもの (コメントなし) 22/50施設

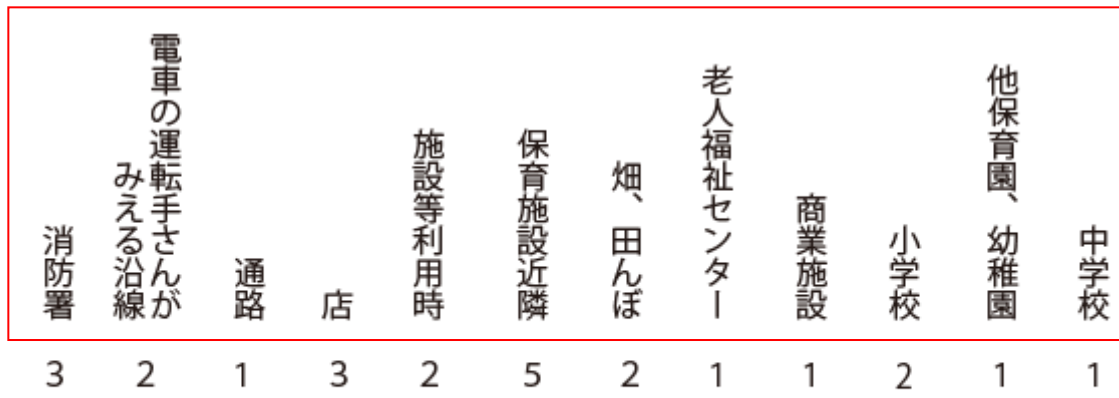


- ③主に「注意事項コメント」が書かれたもの 7施設が注意事項コメントに特化
- ④「既存のマップ」or「手書きのマップ」 手書きは挿絵も多くコメントも多い傾向。

お散歩マップからみる地域活用の様子



それぞれの場所での
交流コメントがあった施設数



- ①配慮する
- ②手を振る、ふってくれる 応えてくれる
- ③声をかける、かけてくれる・挨拶する
- ④一緒に遊ぶ、使う
- ⑤乗せてくれる
- ⑥交流
- ⑦会うのを楽しみにしてくれている
- ⑧見せてくれたりものをもらう
- ⑨イベントに参加
- ⑩買う
- ⑪エサを上げる

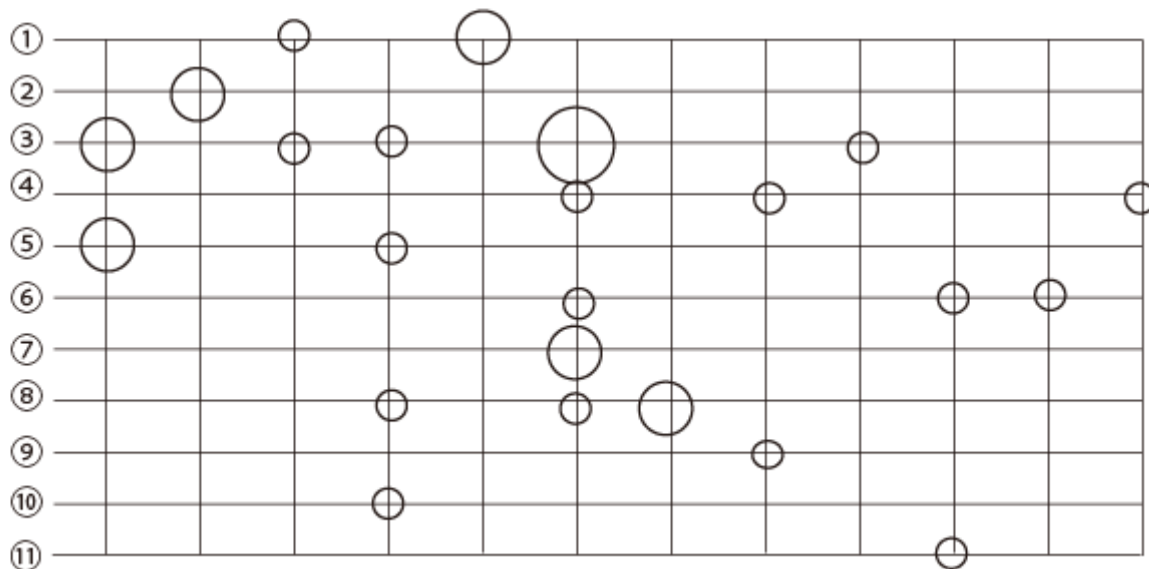


図 人的地域資源と交流状況

1. 多くの保育施設では「まちは園庭、地域全体が保育施設」という視点で

日常的に「お散歩」を行っていること、
特に近年増えている園庭を持たない保育施設などでは
ほぼ毎日行っている

2. 1の実態とは裏腹に

「近隣住民の方々ともっと交流や情報共有を深めたいけれど
きっかけがない」

「防災といった点で地域との繋がりが重要だが今は不安」
といった声も多く、特に新設の保育施設ほど大きな課題



子どもが生活の大半を過ごす保育施設は、
地域の中では“保育事業者”である前に保護者の代わりとなる
“住民”的側面も兼ねており、地域を最大限に活用しながらも、
地域とつながっていくきっかけを求めている。

まずは保育施設と地域がつながるきっかけを！



その仲介ツールにお散歩「マップ」を!

Map Workshop



●おさんぽマップ
点検+発見ワークショップ



●ワークショップ 必須アイテム



●み～んな一緒にまち歩き



●防災まち歩きワークショップ



●ありがとうカード大作戦
ワークショップ



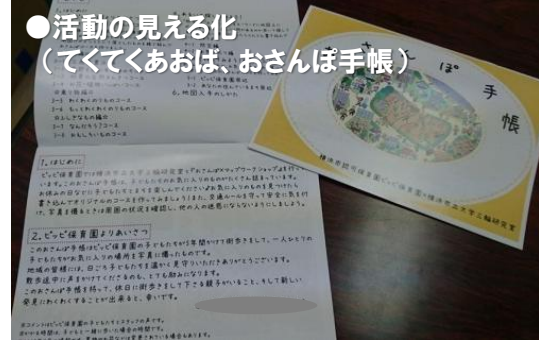
●キッズカメラマンワークショップ



●おさんぽマップ・
バージョンアップ

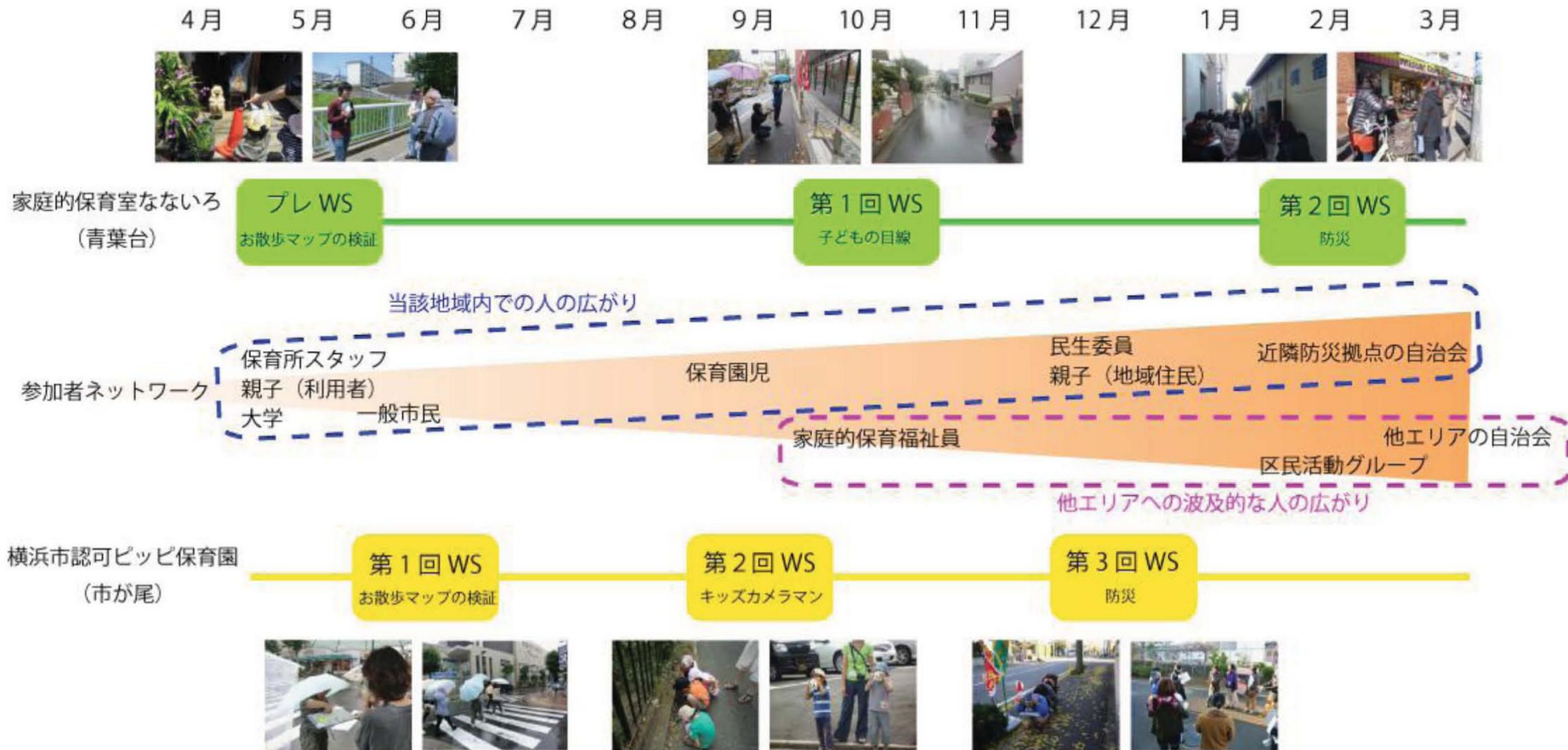


●「まち保育」で防災カアップ



●活動の見える化
(てくてくあおば、おさんぽ手帳)

狭域のまちを違ったテーマで繰り返し出歩くことで 保育施設への理解が広がり地域に根付く



まち保育の4つのステージと多様な主体性の育み

“まち保育”の実践からみえたコミュニティデザイン、参加のデザイン要素

(1)まちで育てる

- ①保育施設がまちをフル活用する必然性の理解
- ②まちとの仲介ツールとして「日常のお散歩活動」へ注目
→子ども達自らが自分たちのまちを評価する「参加」の仕組みとしても機能

(2)まちで育つ

- ①同じまち(範囲)を違った視点でなんども歩くことの意義
→お散歩ワークショップを軸に地域の「組織」と「活動」が繋げる
- ②媒体を通じた活動の見える化

(3)まちが育てる

- ①関わった人たちにお願いするー受け入れることで増えていくコミュニティファン
- ②まちに暮らすたくさんの人と顔見知りになっていく現場の安心感
- ③保育施設が「住民」として地域に受け入れられ連携する体制へ

(4)まちが育つ

- ①まちなかでの双方向の関係をより培う
→楽しませてくれているまちへの感謝、感謝されて気づく自分のまちへの働きかけ
- ②継続することで子どもと関わりない人々に「子ども」の価値に気付く人が増える
→「どこかの子」でなく「わがまちの子」という発言→“明瞭な”当事者性への育み
- ③地域まちづくりに子どもの視点を組み込むことで子どもも大人も変化する

②子どもはまちのどこでどう育つのか

現代の子育ち環境の変化の理解

子どもの育ち、親の育ちに欠かせない
“群れ”と“まね”、そのためのまち

親子で出かける際の選択基準

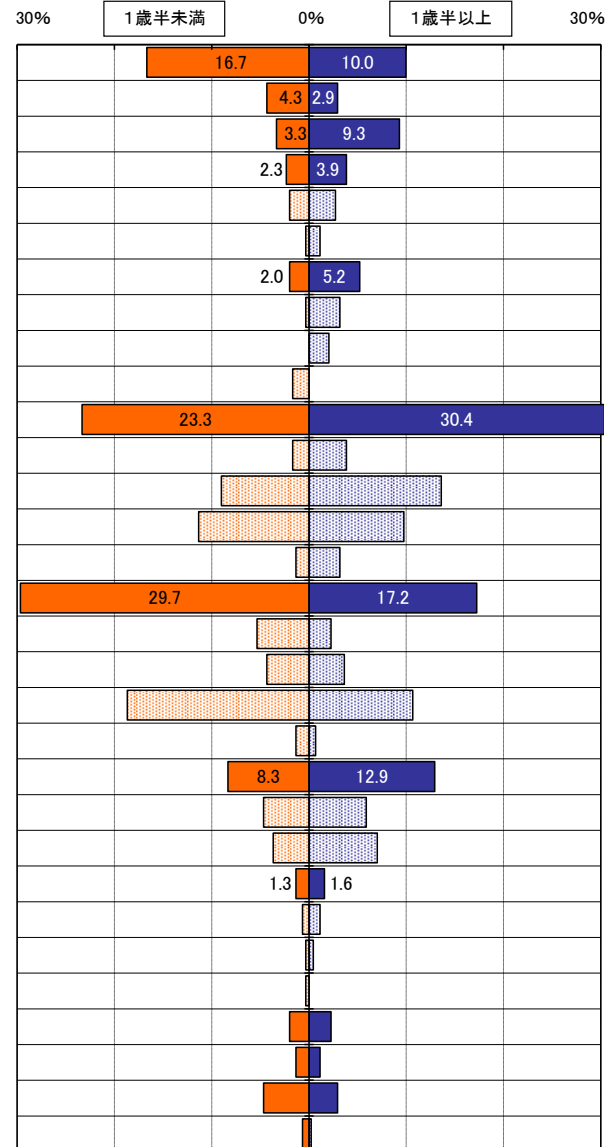
ベスト10

	全体	%	1歳半未満	%	1歳半以上	%
1位	家から近い	31.5	おむつ交換、横になるスペース	50.0	家から近い	33.1
2位	おむつ交換、横になるスペース	27.3	家から近い	29.4	同年代の子どもが多い	25.0
3位	子どもの大声が気にならない	21.4	子どもの大声が気にならない	22.5	無料で利用	23.5
4位	清潔	20.2	清潔	19.6	清潔	20.6
5位	同年代の子どもが多い		親も子どもも一緒に楽しめる		子どもの大声が気にならない	
6位	親も子どもも一緒に楽しめる	19.3	同じ育児中の人がいる	13.7	幼児用遊具の充実	19.1
7位	無料で利用	18.5	同年代の子どもが多い		親も子どもも一緒に楽しめる	
8位	幼児用遊具の充実	14.3	無料で利用	11.8	トイレや水飲み場などの整備	15.4
9位	トイレや水飲み場などの整備	13.9	トイレや水飲み場などの整備		子どもが自分で遊べる	13.2
10位	動物や植物と触れ合うことができる	10.5	自分たちのペースで過ごせる	8.8	動物や植物と触れ合うことができる	12.5

色凡例
設備・機能
環境
立地・アクセス
利用形態
利用者
過ごし方

平日に親子でよく行く場所＜用途分類別の指摘箇所数＞

用途分類	(備考・具体例)	指摘箇所数 (総数)		
		1歳半未満	1歳半以上	
子育て支援施設	子ども家庭支援センター(のびのびひろば、すくすくひろば、すこやか)、0123はらっぱ、0123吉祥寺(武蔵野市)等	94	50	44
図書館		26	13	13
児童館	むらさき子どもひろば、児童館	51	10	41
多目的公共施設		24	7	17
施設内の常設室	コミュニティセンター、社会教育会館、産業プラザ、女性交流室、体育館のプレイルーム等	18	6	12
プログラム	出前ひろば、サークル活動・指導員有り	6	1	5
保育園・幼稚園		29	6	23
園庭開放		15	1	14
通園	本人が通園	9	0	9
それ以外	兄弟が通園 等	5	5	0
公園		204	70	134
児童遊園・広場・あそび場	都市公園指定のない公園、団地内のプレイロフト、あそび場は除く	22	5	17
街区公園・近隣公園	誘致距離250～500m圏の居住者利用を目的とする都市公園法に基づく都市公園(住区基幹公園)。例:下連雀きたうら公園等	87	27	60
地区公園・特殊公園・緑道	誘致距離1km圏の都市公園(住区基幹公園)以上の大規模公園。例:井の頭公園、野川公園等	77	34	43
公園それ以外・不明も含む		18	4	14
商業施設		165	89	76
街・商店街	吉祥寺駅前、三鷹駅前等	26	16	10
大型スーパー等・プレイコーナー(PC)利用有		29	13	16
大型スーパー等・プレイコーナー(PC)利用無		103	56	47
その他・アミューズメント系		7	4	3
家(自宅以外)		82	25	57
親戚の家	実家、兄弟宅	40	14	26
友人の家		42	11	31
集合住宅・マンション等		11	4	7
団地内のプレイロフト、公園		7	2	5
団地内の施設	マンション内のキッズコーナー	3	1	2
団地内の外部空間		1	1	0
教室・習い事・子育て関連民間施設	塾、おけいこ、おっぱいマッサージ	16	6	10
自然の場所	山、川等	9	4	5
その他	役所、郵便局、大学、病院、銭湯	27	14	13
不明		3	2	1



『運動の敏感期』の乳幼児との外出

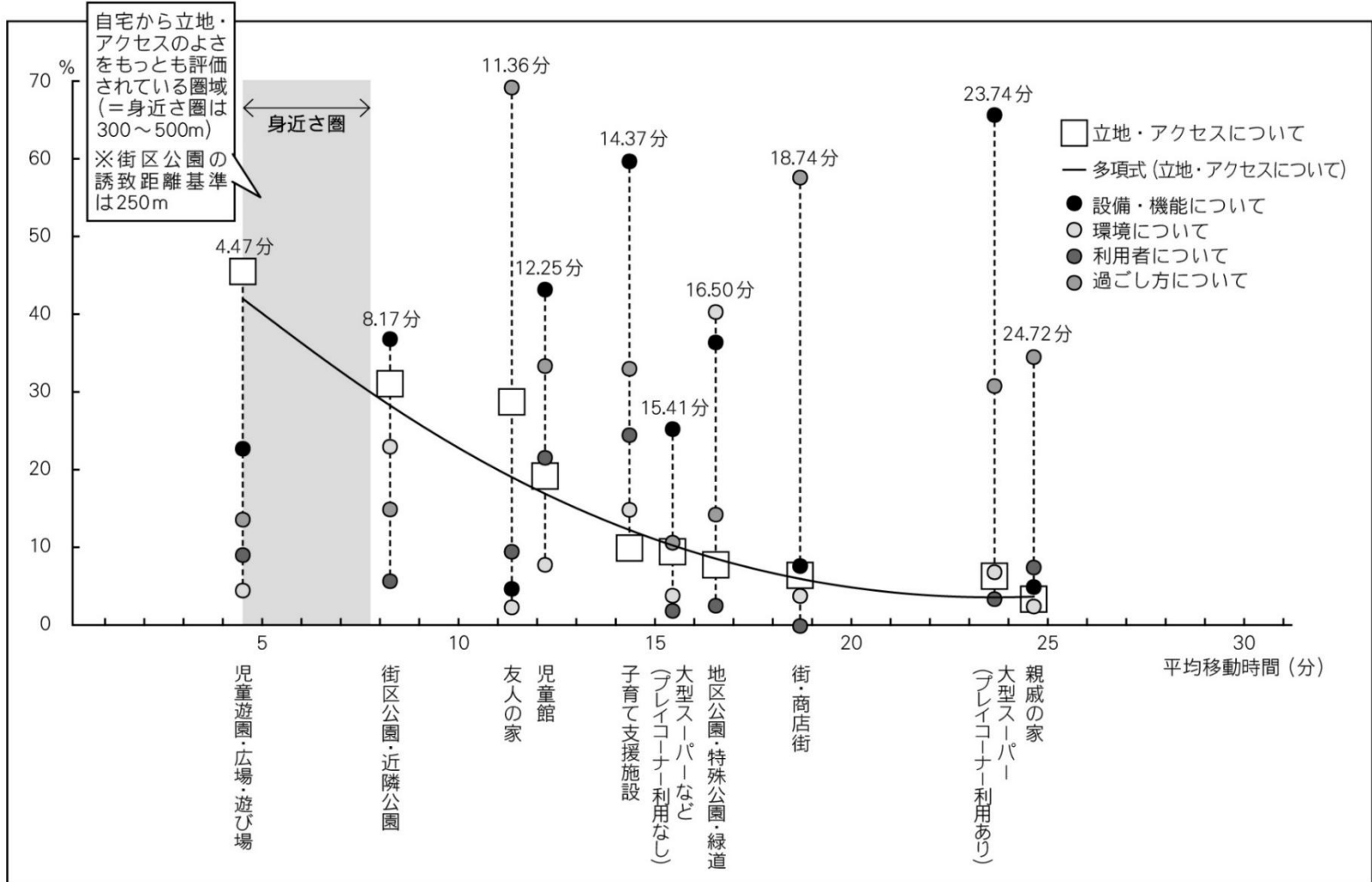
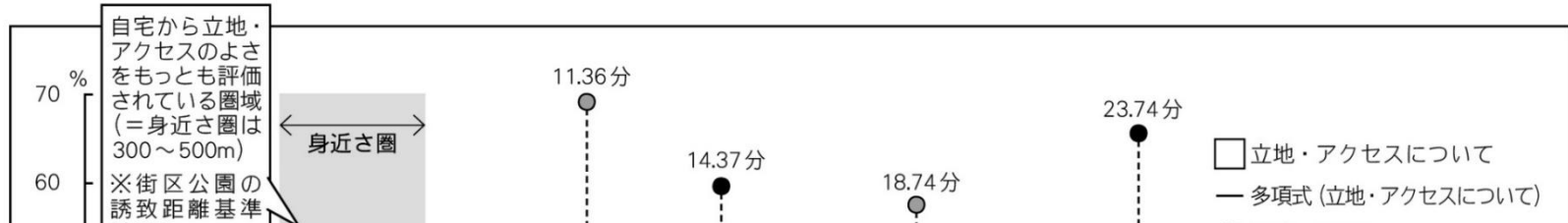


図1. よく行く場所までの平均移動時間とその場所の選択基準(評価)の関係(三鷹市、2003年度)

『運動の敏感期』の乳幼児との外出



- 6か月～4歳半頃の『運動の敏感期』の子どもにとって、「歩く」ことは生活に必要な運動能力を獲得するのに大切な行為
- 近くにあるから利用する場所 × 遠くにあっても利用したい場の存在
- 親子にとっての「身近さ」はおおよそ時間にして5～7分、距離にして250～300m程度(『乳幼児生活圏』)と意外に狭い

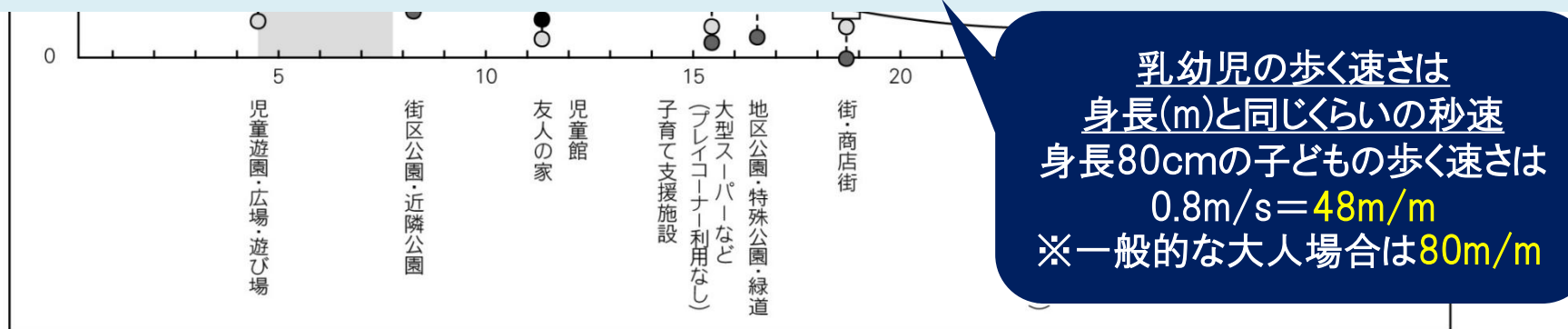
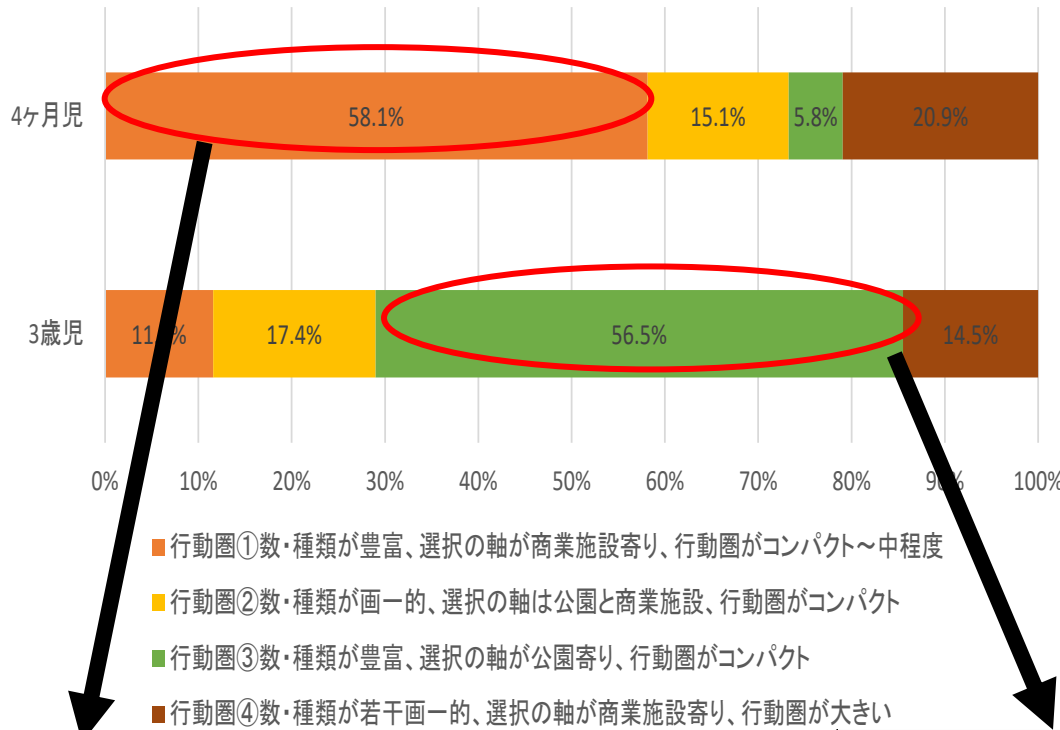


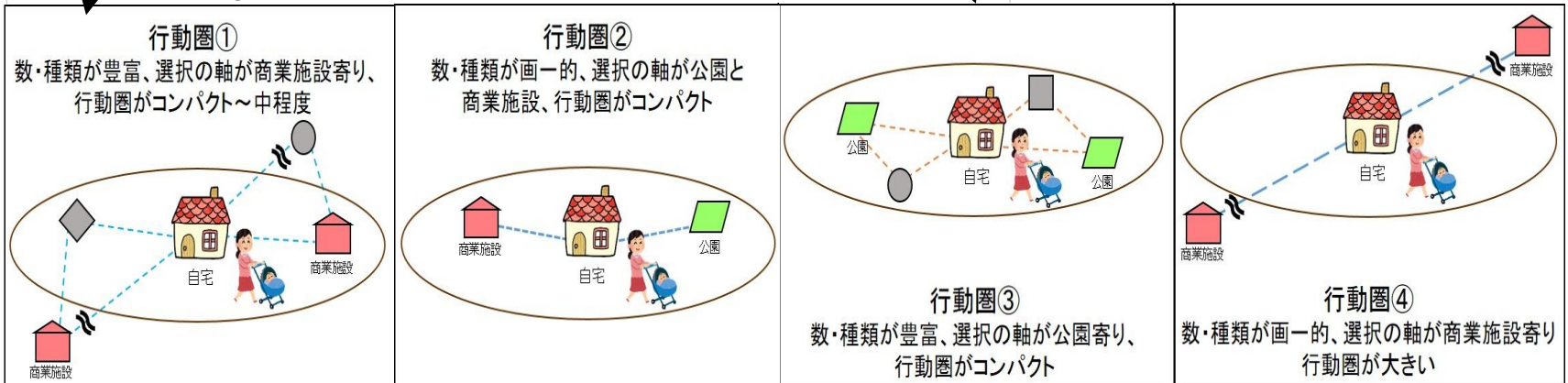
図1. よく行く場所までの平均移動時間とその場所の選択基準(評価)の関係(三鷹市、2003年度)

子どもの成長と行動圏類型の関係

(カイ二乗検定1%有意差あり)

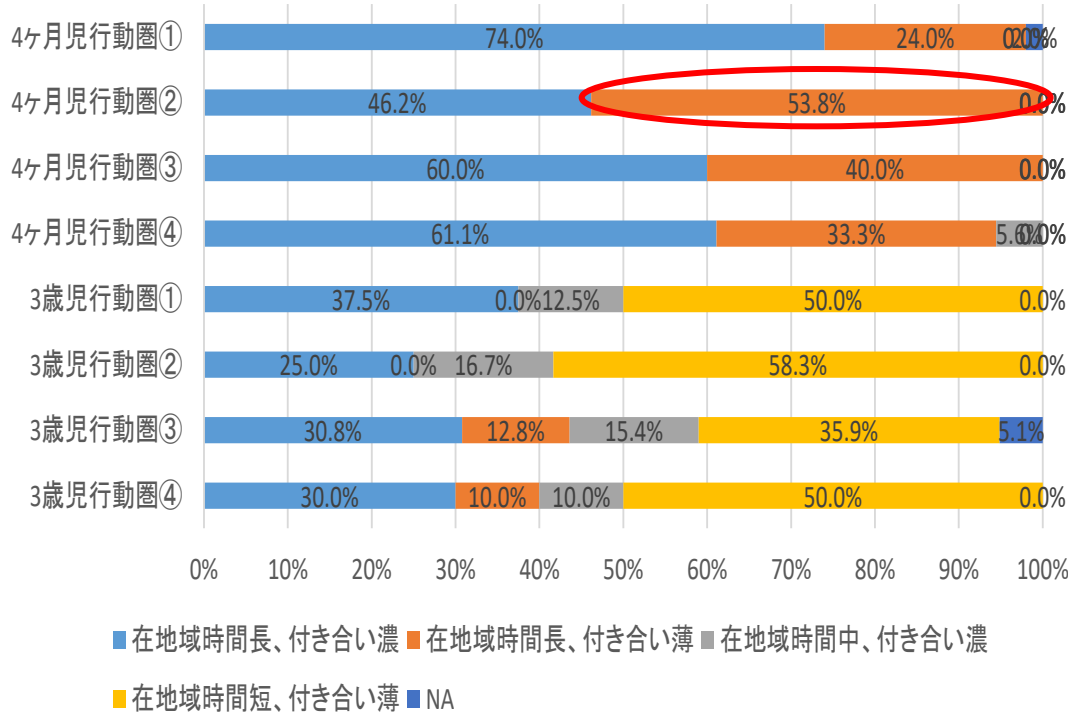


4ヶ月児は「**行動圏①**：数・種類が豊富、選択の軸が商業施設寄り、行動圏はコンパクト～中程度 (58.1%)」、
 3歳児は「**行動圏③**：数・種類が豊富、選択の軸が公園寄り、行動圏がコンパクト (56.5%)」の割合が多いという年齢による特徴。



行動圏類型と地域へのコミットメントとの関係

(カイニ乗検定1%有意差あり)

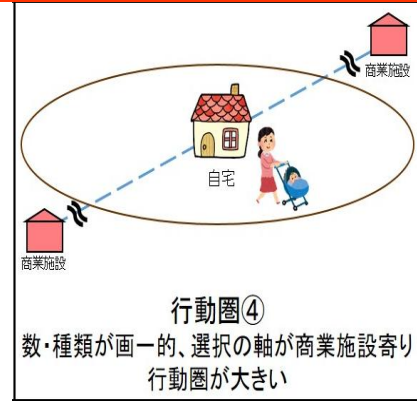
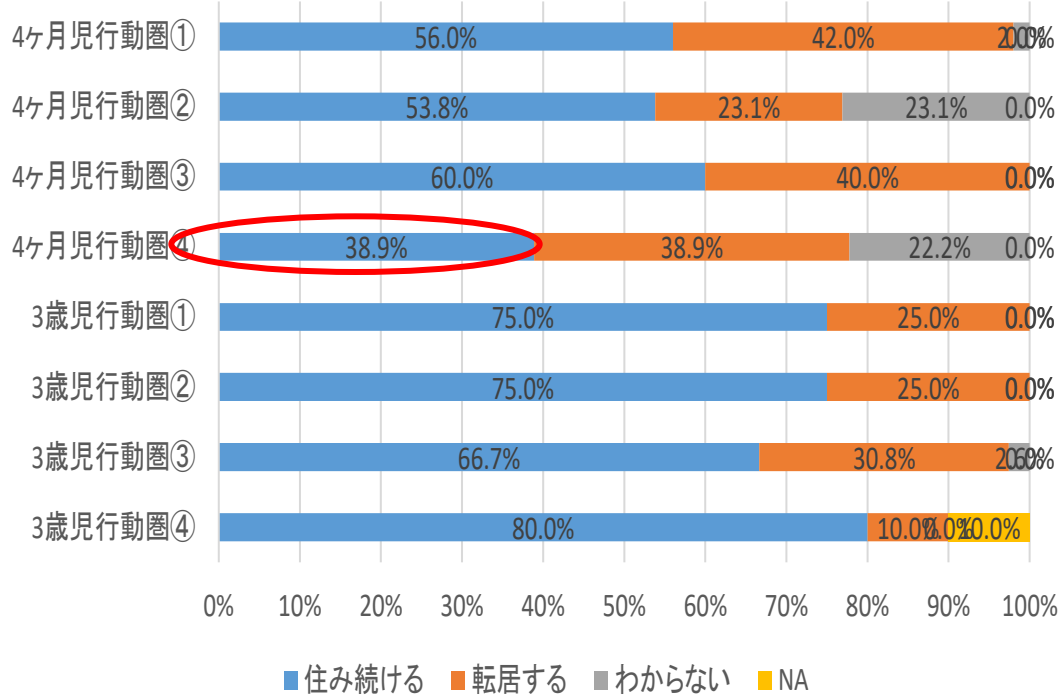


4ヶ月児において
「行動圏②：数・種類が画一的、選択の軸は公園と商業施設、行動圏がコンパクト」
の親子が他と比べて、
「在地域時間が長く、近隣地域との付き合いが薄い（53.8%）」
の割合が高かった。

「近くの行ける範囲にある公園や商業施設のみに行っている人」
は、
「在地域時間が長いにも関わらず、近所づきあいが薄い」傾向

行動圏類型と定住志向との関係

(カイニ乗検定1%有意差あり)



4ヶ月児において
「行動圏④：数・種類が画一的、選択の軸が商業施設寄り、行動圏が大きい」
の親子が他と比べて、
「住み続ける（38.9%）」
の割合が低かった。

注) 定住志向は「住み続ける」「転居する」「わからない」の3項目で分析を行った。

「よく行く場所の数・種類が画一的で行動圏が大きい人」は
「定住志向が低い」傾向

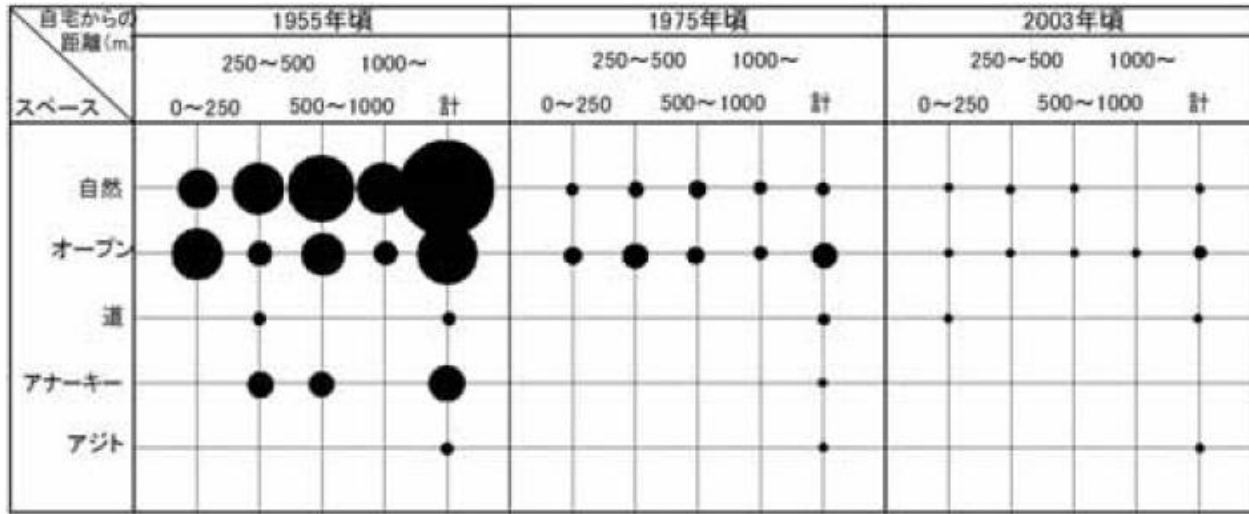
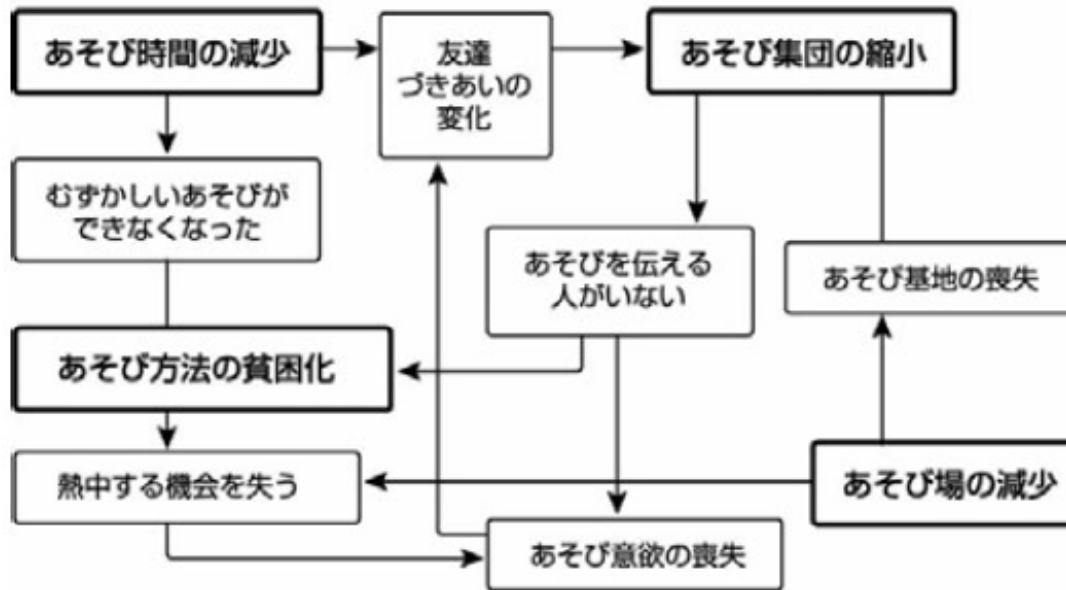


表 10-11 遊び仲間 (複数回答: %)

		親の世代	子の世代
1	異年齢の子ども	76.5	16.7
	同年齢の子ども	38.5	85.5
2	同性の子ども	54.2	79.8
	異性の子ども	54.7	18.4
3	少人数(4人まで)で	18.1	82.0
	多人数(5人以上)で	77.3	8.2

(注) 6歳児の母親 1640名を調査



※ → は、影響を与えるものから与えられるものへ

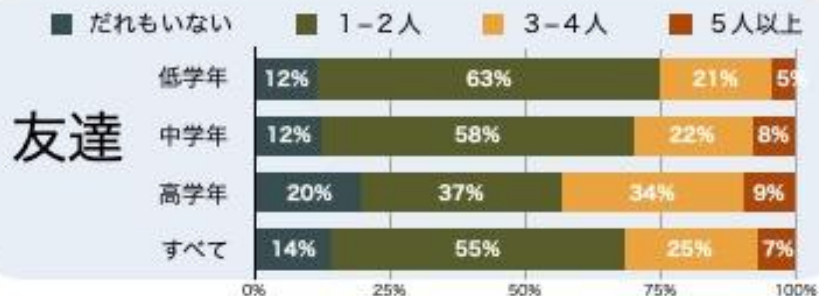
出典：対外報告『我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて』平成19(2007)年7月13日日本学術会議より



日本：子どもの遊びの現状... (学年別)

都市部

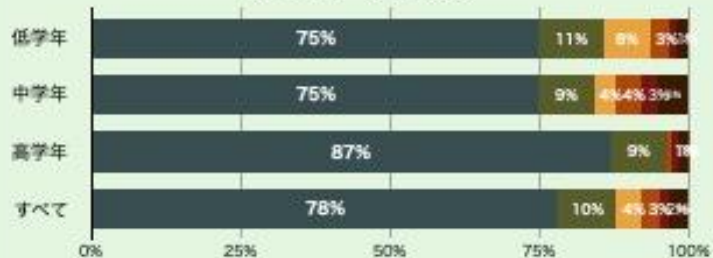
- ・ 友達・・・1-2人が多い。
- ・ 場所・・・家、家の前、公園、商業施設
- ・ 日数・・・外遊び日が極めて少ない。



日数 遊ぶ日 (屋内・屋外)



遊ぶ日 (屋外)



場所



●「友達」と過ごす場所

- 「公園」を中心に「学校」「商店街やお店」等やや分散的に指摘。

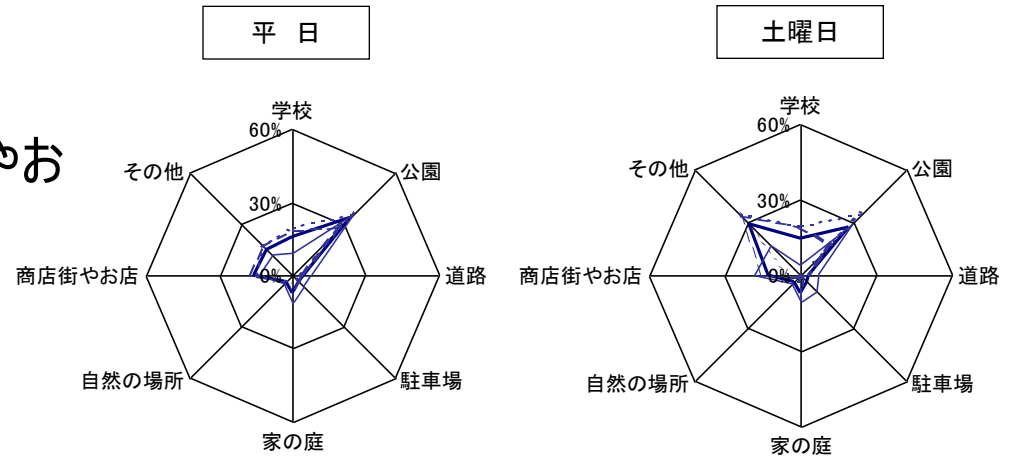


図 「友達」との活動用途種別構成比

●「一人」での過ごす場所と活動

- 「商店街やお店」「その他」が約4割で集中。
- 傾向は大人との活動に準ずるが、活動内容は「買い物」だけでなく「散策」も。

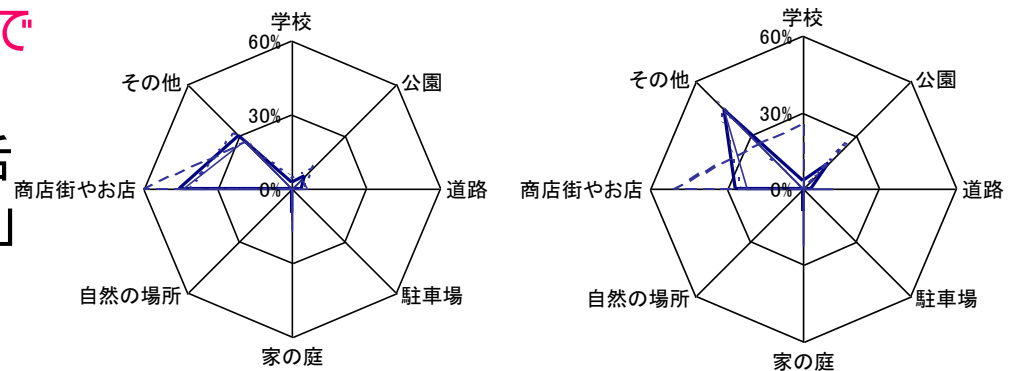
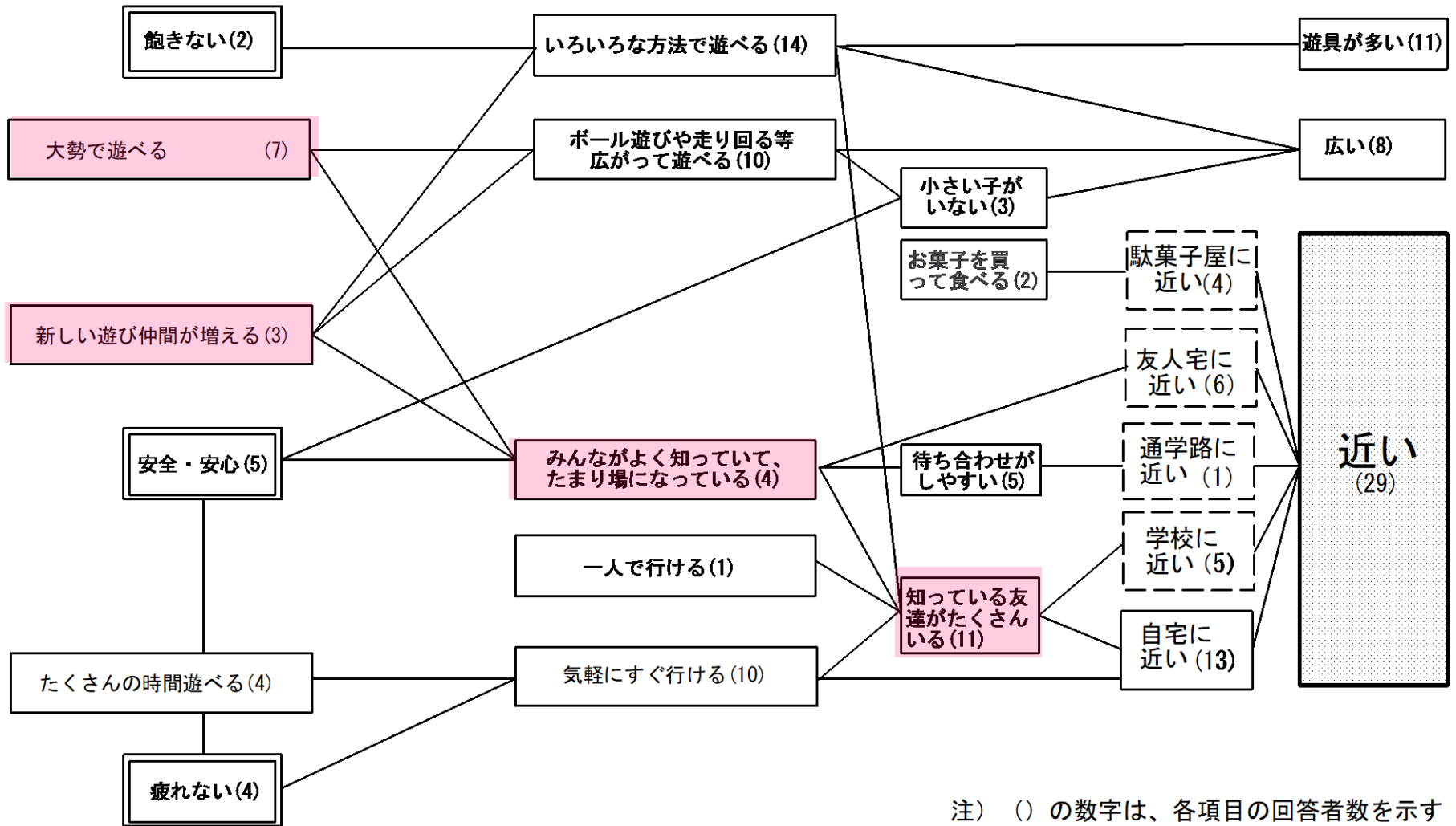


図 「一人」での活動用途種別構成比

「計画されたあそび場」だけが子どもの空間ではない



保土ヶ谷区における『公園』の選択評価構造図

点在する活動場所を選択する彼らなりの理由から

「人的繋がり」への欲求が推測

子どもの場や人の繋がりの“選択肢”を増やすことの重要性

—多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど幸福感が高い

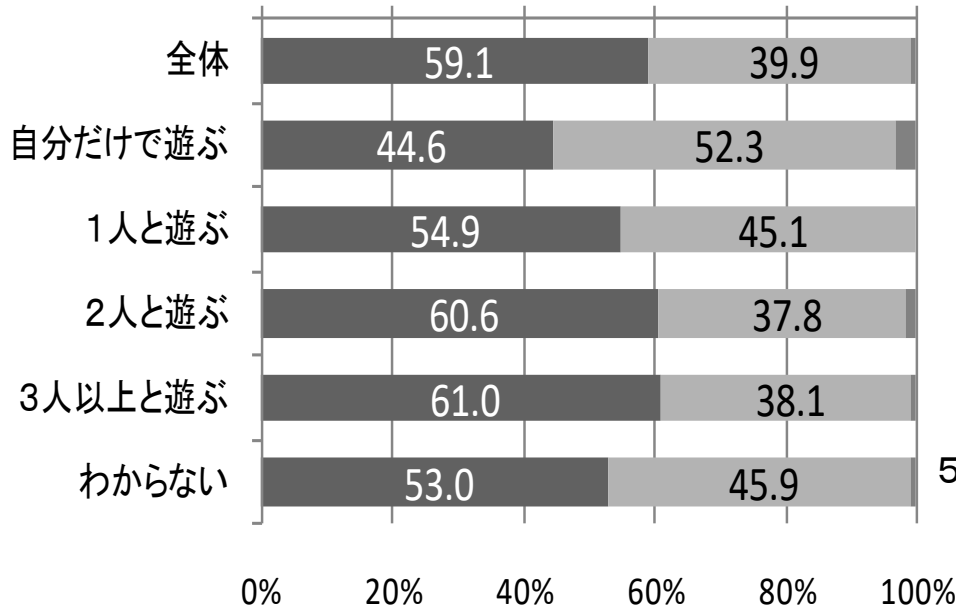


図 一緒に遊ぶ人数別幸福感 (p<0.5)

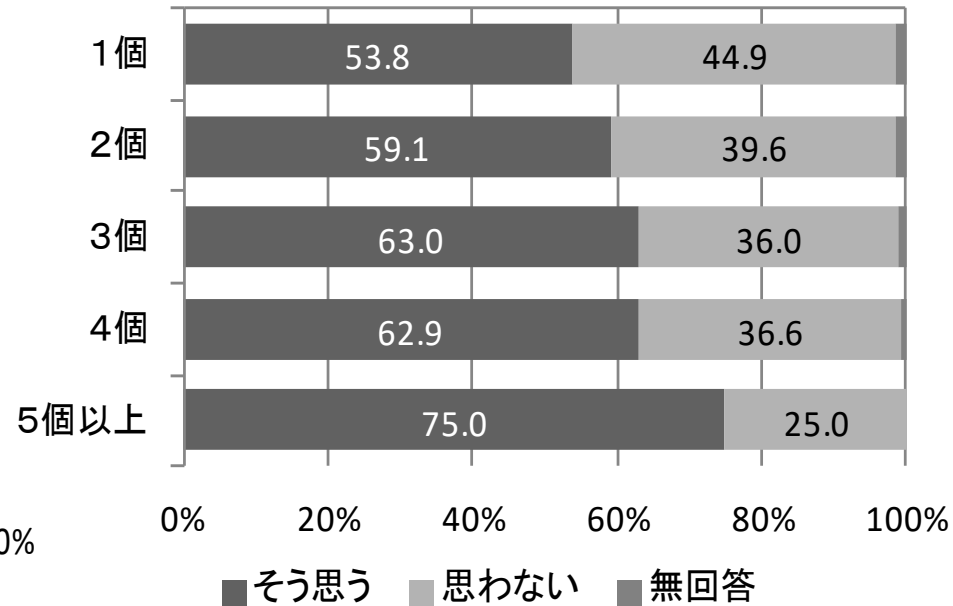


図 遊ぶ場所の選択数別幸福感 (p<0.1)

親子で成長していくために
胎児期から子どもを主軸にして
まちとの関りを想像する

胎児期からの地域との関係性構築に向けた
母親の行動分析(横浜市を事例に)から

背景

地域とのつながりの希薄化は、母親を孤立させる要因となり、産後うつや虐待などにつながっていく。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援が重要とされているが、子育ての観点から胎児期からの支援をどうやって行っていくか。

目的

連携施設や胎児期の支援方法を検討するため、“子どもを地域社会で育み地縁でも共有できるまちづくりの観点からの仕掛け”（『まち保育』）の発想から、胎児期の子を持つ母親の行動圏を捉え、里帰り出産や子育て不安などの関連性を分析



写真 大判地図調査の様子

- ① 認定 NPO 法人が子育て支援の一環として横浜市の大型複合商業施設内で運営するアウトリーチ型無料広場の来場者87名（一般派と想定）
- ② 横浜市地域子育て支援拠点 7 か所に来館されている第一子0歳児の母親187名（積極派と想定）

対象

● 里帰り出産をした人は地域での子育てに不安を感じやすい

調査対象者の 9 割が配偶者と子どものみ世帯。

そのうち里帰り出産をした人が約 4 割。その群は自分が居住している地域での子育てに不安を感じやすい傾向(特に第一子)

● よく行く場所の変化と相違:

胎児期には商業施設、乳幼児期になると公園へ

① **一般派**: 最も多いのは胎児期も乳児期も変わらずよく行く場所の箇所数や種類が画一的である人(「内向的」)で、「地域で子育てしていくことへの不安がある」「預けられる人がいない」人が多い。この傾向は特に子どもが第一子のみ在世帯に強く表れ、胎児期から変わらず内向的である人は、子育てをしていくことに不安を感じていて、地域との関わりが薄い傾向。

② **積極派**: 胎児期では場所の箇所数が豊富なものの、乳児期になると箇所数・種類数ともに画一的になり、出かける場所がぐんと減少

妊娠期からの社会関係資本構築が産後の適応に及ぼす影響
—地域子育て支援拠点来館した第一子0歳児の母親(積極派)の分析から—

●メンタルヘルスに問題を抱えている母親は約3割

- ・「地域での子育てへの不安がある」「近所に交流する人がいない」
＝メンタルヘルスの点数が低い
- ・「近所に交流する人がいない」「近所に子どもを預けられる人がいない」
＝地域での子育てへの不安がある割合が高い

⇒地域での子育て不安や近所に頼れる人がいないことが
心身健康に関係していることが明らかに。地域に子どもを預けられる人がいることは、子育て不安を抑え、メンタルヘルスを良好にする可能性も示唆。

●母親に対する夫の「情緒的サポート」が不十分

産前産後のソーシャルサポート得点の結果から、「子どもを寝かしつける」、「落ち込んでいたら慰めてくれる」、「褒めてくれる」、「あなたの話を聞いてくれる」の4項目の得点が、産前から産後にかけて有意に低くなった。

⇒プレパパ教室等の活動を通して、おむつ替えや子どもの入浴などの「道具的サポート」だけではなく、励ましたり・愚痴を聴いたり・相談役になったりといった情緒面でのサポートである「情緒的サポート」が大切。

- 6か月～4歳半頃の『運動の敏感期』の子どもの外出は、
歩くことを移動手段として考えず、「歩くために歩く」の実践期と捉える
- 出産直後はどんな人でも行動圏が狭まり、行く場所も画一的になる
- 近くの同じ公園や商業施設のみに行っている人ほど
近所づきあいが薄くなる傾向
- 自分が居住している地域を知らない・知れないこと(例：里帰り出産)は
その地域での子育てに不安を感じやすい
- 遊び場の多い小学校区に住む母親ほど産後うつになりにくい
- 合計特殊出生率とまちの自然や緑、身近の集いや地域交流の場には
相関関係がある?!
- 周辺に知り合いや多様な居場所を持っている人ほど定住志向がある
- ソーシャルサポート決定打は「情緒的サポート」!
- 地域に子どもを預けられる人がいることは、
子育て不安を抑え、メンタルヘルスを良好にする可能性も
- 保護者も不安な小1の壁、小4の壁：放課後の子ども達をどう考える?!
- 多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど幸福感が高い。

- ◎子どもと親の育ちに「群れ」と「まね」は欠かせない。
その状況をどう「まち」に創り出すのか。
- ◎子どもの育ち、保護者自身の安心醸成にとって
大事な「まち」との関わりを
どの段階で理解するか。理解してもらうか。どう伝えるか。
- ◎乳幼児生活圏(300m生活圏)という身近な地域コミュニティの中で集いや出会い(「群れる」)の環境をどうつくるか。
- ◎場所だけあってもダメ。その場所につなげる包括的な仕組みと総合的なマネジメント体制も必要。
- ◎他人の子どもの存在への寛容さの醸成、
そして子どもの主体性を意識する大人をどう増やすか。

③なぜ子育て支援ではなく子育て支援なのか

これからの子育ては
私的領域から公的領域で行う時代 でも…

子どもを育む環境としての
都市計画・まちづくりの課題

“現代版群れた地域コミュニティをつくる”
そのためのまちづくりの課題を理解する

1. 家族の変容(核家族化、夫婦共働き等)に伴い 「地域社会で群れてまねる子育て(vs子育て)」を どう捉えるかの観点が不足している

- ①男女の役割を分担推進する住宅地開発(住宅政策)から、
男女が共に働き群れた暮らしをするための居住政策へ
- ②子ども達が集団で過ごすという場の多様化とゆるやかなつくり込み
 - ・遊び相手が見つけられない、他者とふれあう機会が減っている子ども達にとっては、そのような設え(例:単目的施設から複合目的施設)の必要性が高まる。
 - ・限られた地域資源の中で施設とその環境を、誰がどのように 企画、管理、活用していくかといった地域での『エリアマネジメント』の観点に、子どもの主体性の構築も必要。

→**空き家・空きビル、空き教室、公園、道、公開空地等の“まち”のシェア**

子どもの育ちを軸に、そしてライフスタイルにあった、
個人—家庭—地域—仕事—ケアのバランスがとれた
「生活者」でいられ続けるまちづくり

→住む—働く—暮らす—**互助の場**の再想定

2. “地域”で子育てすると謳われてはいるものの…
受け手となる“地域”ってどこの誰？私のこと？
その当時者性は不明瞭でわかりにくい
3. 胎児期～特に就学前の子ども達が集積する場が複雑化
子育てを支援する福祉サービスの場としての視点が強く、
「これからそこに育っていく子どもが集う場」と視る
子育てを支援する視点が決定的に欠如
4. まちなかにおいて子どもで客体ではなく主体として捉える
視点の欠如、学童期後半～中学生・高校生にとっての
主体的な居場所となる空間も不足

胎児期から学童期前半の「身近な集いの環境」は重要！

- 子どもが地域で育てられていくこと、学童期のまちとの繋がりも視野に入れ、
子どもが“育つ”という子ども目線からが重要、その理解
- 各ライフステージで「地域」と関わることができるしかけ

⇒ **誰が**中核になって仕掛ける？ 仕掛ける上での**圏域設定**はどれくらい？

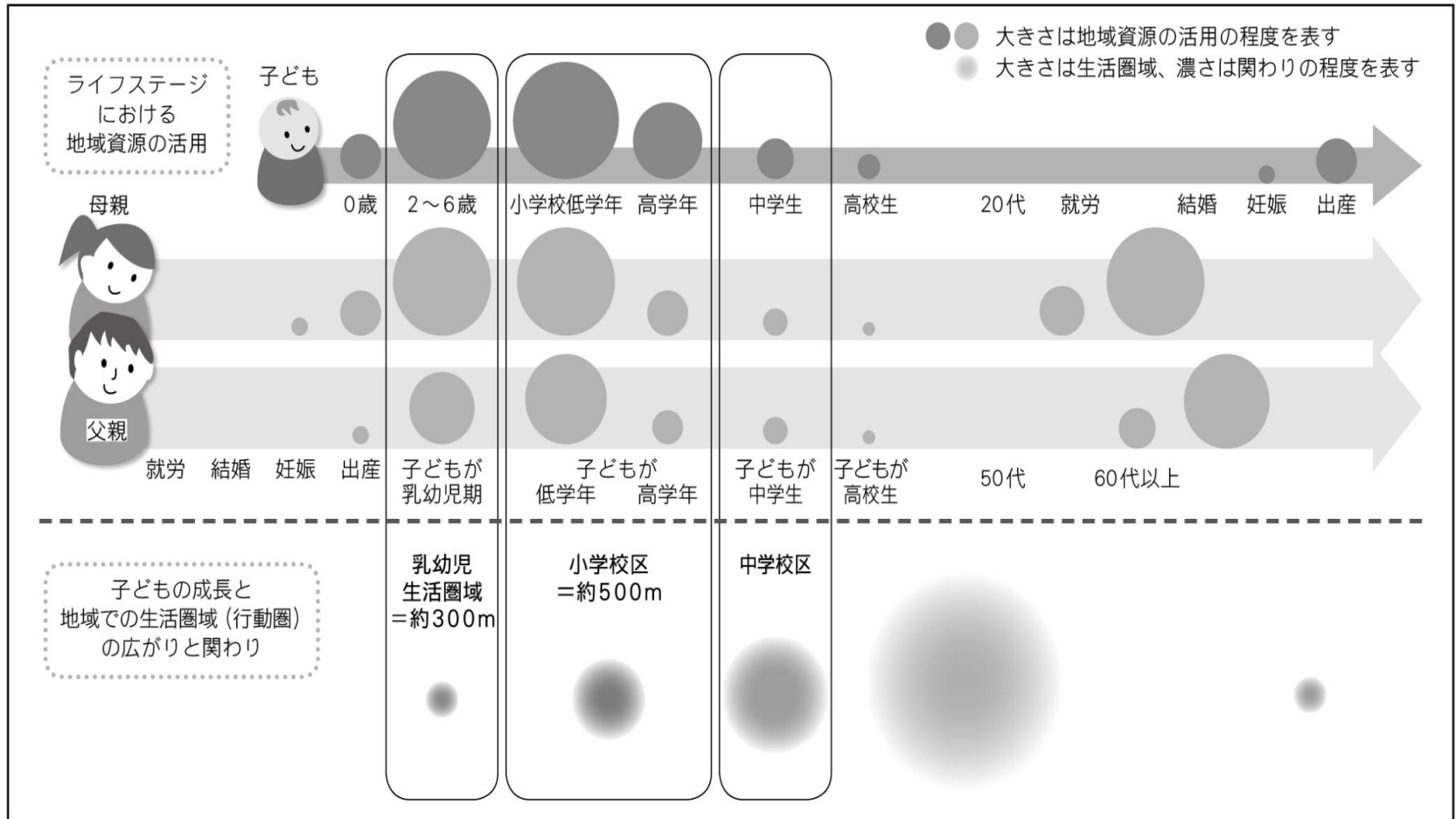


図 こどもの成長と地域社会との関係

出典：『まち保育のスーマーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』
2017年5月5日発行（萌文社）より

④まち保育の4つのステージ実現のために

地域でつながる「子育て」

キーワード:

- ・日常生活圏での選択肢を増やす上での「場」の重要性
- ・専門性の弱い「場」×専門性の弱い「人」
- ・する—されるでないお互いさまの精神と参加のデザイン

いつも
伝えていること

まち保育の4つのステージが実現されるための まちのマネジメントの観点

セミパブリックを豊かに開く視点 一点から線、線から面へ

- ◆まち保育のきっかけをつくる「点」のつくり込みの工夫：
 - 空き空間を活用する
 - “すき間”と“境界”のデザインの工夫
 - 居住者ニーズと地域をつなぐ設えと参加のデザイン
 - 弱い専門性の“人”の集積と弱い専門性の“場”の創出
 - 非公開緑地(企業緑地)の活用への着目
- ◆まち保育が滲み出す点を「線」で結び繋げる仕掛け：
 - まち保育には欠かせない“道”という空間を改めて見直す
 - まち保育に欠かせない地域資源の存在を軸に“あえて”立地
- ◆まち保育を「面」に広げて行く戦略：
 - “まち”がマネジメントも込みで戦略的に施設を誘致する
 - 計画住宅地の生活圏にまち保育マインドの“タネ”を

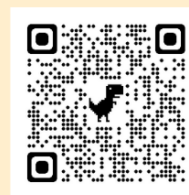
子育てを主軸にまちづくりの担い手を増やす仕組みづくりへ

- ◆まちをフル活用することの多様な効果を伝える
- ◆子育て施設などの地域貢献的側面を「見える化」し評価する
 - 地域と施設をつなぐ仲介役(コーディネーター)の専門性・職能

親子のつどいの場づくり／多世代交流拠点内でのあいまいな領域化



改修前



あしたタウンHP



並木ラボInstagram



あしたひろばLINE



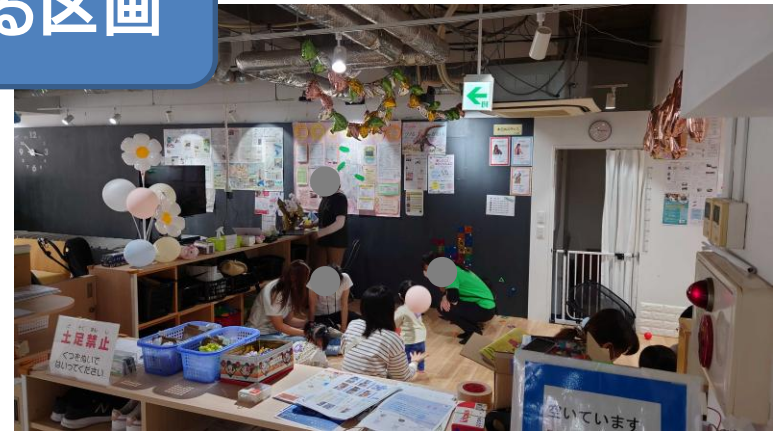
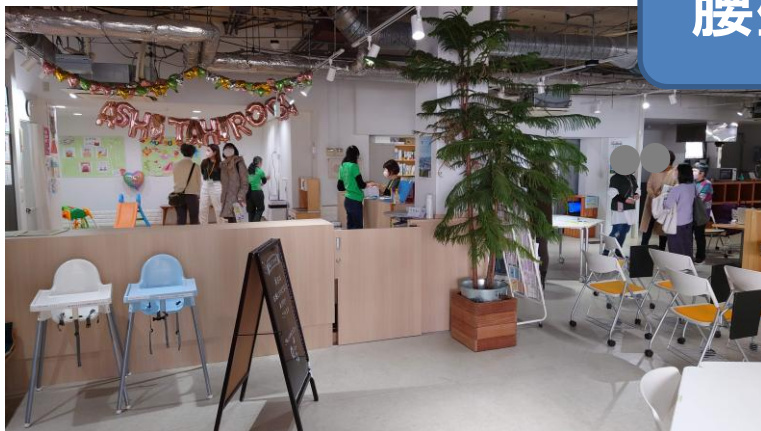
あしたひろばInstagram



多世代が集いやすい空間を活かして、子育て支援にさりげなくアクセスすることになる“とまり木”としての機能を重視



腰壁による区画



ゆるい支援のアウトリーチ／ 公園や広場を巡る遊びや出会いの創出

金沢シーサイドタウン

(PR)

身近な公園で楽しんで

親子で楽しむ「ばあくるin並木」

金沢区並木の団地「金沢シーサイドタウン」で10月25日、身近な公園や広場で外遊びやおしゃべりを楽しむ新企画「ばあくる in 並木」がスタートした。

ばあくる in 並木は、金沢シーサイドタウンの活性化に

取り組む「あしたタウンプロジェクト」内の子育てプロジェクトによる新企画。横浜市立大学でまちづくりを研究する三輪律江教授や大学生、地元の主任児童委員や有志が中心となり、団地を管理するUR都市機構などと協力し、毎回異なる公園で実施する。「公園（パーク）に来る」を略して名付けられ、三輪教授は「この地域には身近で楽しめる小さな公園や広場がたくさんある。一つの拠点ではなく、いろいろな場所に出向いて身近な人同士が出会えたり楽しめる場をつくれたらと思っているので、気軽に立ち寄ってほしい」と話す。



子どもに人気だったシャボン玉

子育て相談も

初回は並木1丁目15街区公園で開催。保育園児や近隣に住む親子らが公園を訪れ、大学生たちとシャボン玉や遊具などで遊んだ。「バッタ」や「おはな」など身近なものを見つけて楽しむ「ばあくるビンゴ」も用意され、カードを片手に公園の周りを探検する子も。3人の子どもと参加した母親は「地域の人に遊んでもらい、子どももうれしそう」。また、「地域子育て支援拠点」のリーダーや市大の有本准教授（保健師）らも参加し、子育て相談にも応じた。

企画を担った学生の一人、佐藤歩美さん（横浜市大3年）は「楽しそうに遊んでくれてうれしい。思っていたより小さい子どもたちがたくさん来てくれたので、年齢に合った遊びを取り入れたい」。次回は11月29日（月）午前9時30分から11時に、並木2丁目のりべか公園で開催予定。申し込みは不要。直接会場へ。



手づくりの「ばあくるビンゴ」

妊娠期からまちを知る“お産歩”講座

妊婦さん向け！
参加費無料！！

助産師
子育て支援者と行く！

お産歩講座

11/SUN 5 11/SUN 19 12/SUN 3

※原則3回連続講座
いずれの日程も
10:00~11:30
(受付開始 9:30)

対象者：出産予定日が2024年2~4月の方で
在住の地域で初めて出産する方
10組予定（パートナーとぜひ！）

会場：山本助産院内 ※駐車場のご用意はありません
横浜市補助事業親と子のつどいの広場たんぼぽ

内容：1回目 まちを知ろうPart1
遊べる身近な場所を紹介！
2回目 まちを知ろうPart2
子育てに必要な施設を紹介！
3回目 実際にまちを歩いてみよう
出産後のお散歩を疑似体験してみよう！

参加者全員に
マタニティグッズ
プレゼント！

上記QRコードから
申し込んでください

希望者には
保育あり！

おなかの赤ちゃんと一緒に、“これからの”子育てに
役立つスポットを見つける「お産歩」をしてみませんか。
子育ての味方、困ったとき助けになる場所、赤ちゃん連れ
でも楽しい場所を、まずは地図上で妄想しながら探します。
災害時の子連れ防災についても、まちづくり専門家と一緒に
考えます。
また出産後の子どもとお散歩の極意もお教えます。
お産の前に、不安なことを少しでも軽くして、
子育てが楽しみになるように、妊婦仲間と楽しみながら
「お産歩」しましょう。

＜アクセス＞
金沢文庫駅より
「京急バス 文11八景台住宅行」乗車
9:15金沢文庫発への
乗車がおすすめです！
西ヶ谷戸より徒歩3分

メールでのお問い合わせは
下記QRコードより可能です

主催：横浜国立大学 三輪研究室・山本助産院・横浜市補助事業 親と子のつどいの広場たんぼぽ
協力：関東学院大学 看護学部 母性看護学・（一社）産前産後ケア推進協会監事 榊田明子・東京都市大学
松崎研究室・金沢区こども家庭支援課・金沢区地域子育て支援拠点とことこ・パルシステム生活協同組合連合会

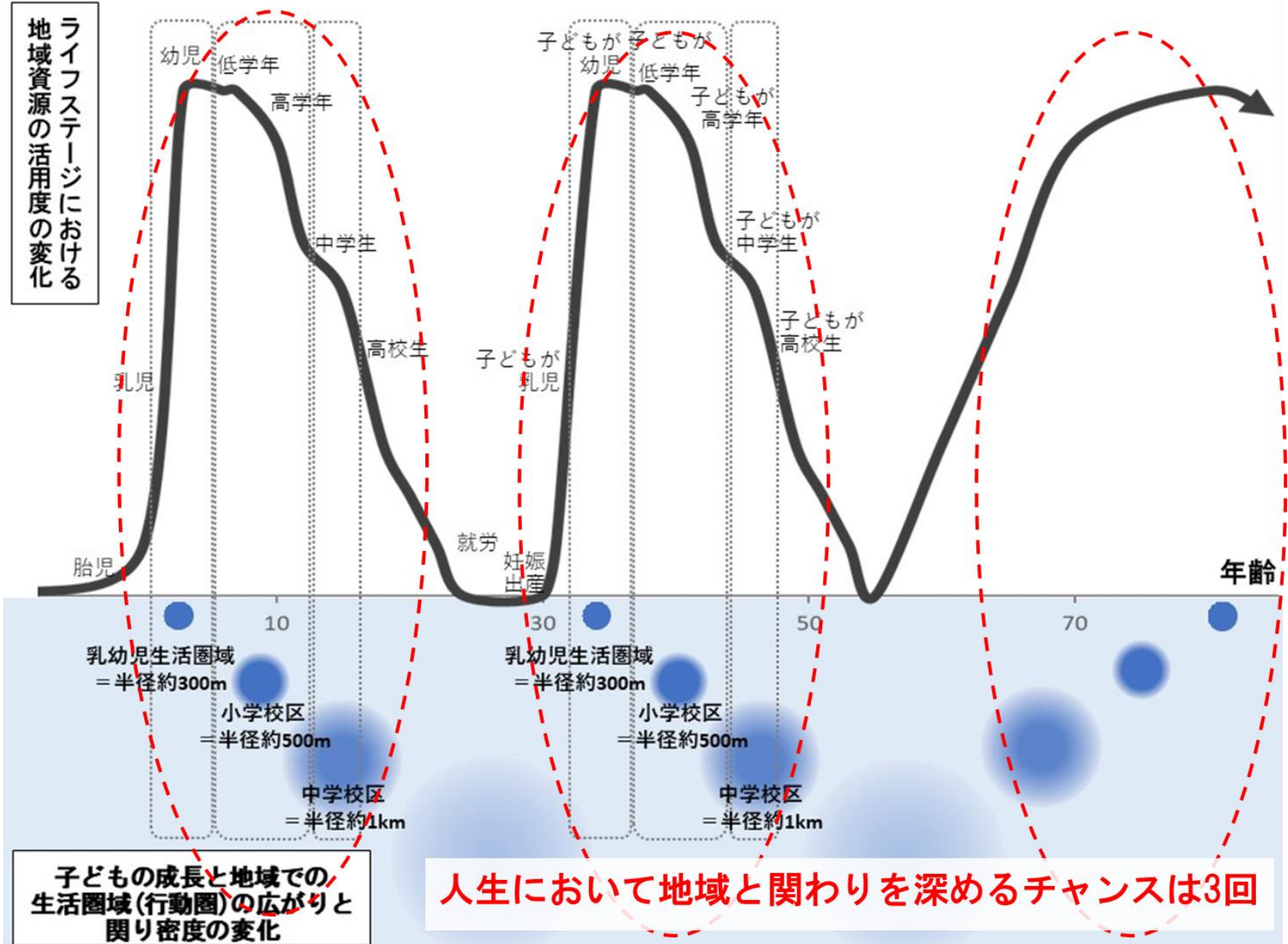


		胎児期	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童期前半	学童期後半	中学生	高校生	成人へ	
親子で一緒に過ごす場	産科・産院・助産院	●プレママ・プレパパ教室等													
	子育て支援事業		●地域子育て支援拠点 ●つどいの広場 ◎子育てサロン ○児童館のキッズコーナー等												
子どもだけで過ごす場	教育・保育施設等		●一時預かり事業 ●ファミリーサポートセンター（子育てサポートシステム）												
			●保育所 ●認定こども園						●小学校・中学校（義務教育）		●高等学校				
			●地域型保育事業（家庭的保育・小規模保育・事業所内保育・居宅訪問型保育）			●幼稚園 ●預かり保育		●放課後クラブ ●学童保育							
	その他(認可外)		●地方自治体独自の基準による保育施設（東京都認証保育所、横浜市保育施設等） ●企業主導型保育事業 ●その他の認可外保育施設						●児童館						

胎児期から成人にかけてのライフステージにおける子どもの施設インフラ

子どもたちの育ちは連続している
 子育て支援は、同じまちをシェアする多世代が、
 そこに暮らす子どもの育ちに関心を寄せるところから
 始まるのではないか。

乳幼児生活圏は互助生活圏



ご清聴ありがとうございました